

京都薬科大学創立130周年を迎えて

去る4月20日、本学中央講堂兼体育館において、本学創立130周年記念式典が挙行政され、ひきつづきT31講義室で記念講演が開催され、そして祝賀会が再び中央講堂兼体育館を会場として賑々しく催されました。

周知のとおり、本学の前身である京都私立独逸学校は、1884（明治17）年、京都府のお雇いドイツ人ルドルフ・レーマン先生の薫陶を受けた人々を中心に、多くの有志からの寄付を得て誕生しました。それ以来今日にいたるまでに幾度かの困難に直面しながらも、そのたびごとに卒業生をはじめとする関係者たちの物心両面での結束によって飛躍と成長をとげ、今日を迎えることができました。具体的には、1892年の私立京都薬学校への組織替え、1919（大正8）年の京都薬学専門学校への昇格、1949（昭和24）年の京都薬科大学創設、そして最近では2006（平成18）年度からの6年制への移行という画期をあらためてふりかえってみれば、そのときどきの先人たちの労苦が偲ばれます。130周年記念式典と関連行事は、それらの人たちへの感謝、未来への決意をあらたにする機会となったように思われます。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

＜130周年記念式典等式次第＞

開催日 2014年4月20日（日）10:00～14:45

・記念式典（中央講堂兼体育館）

10:00～11:15（受付開始9:30～）

10:00 式辞

学校法人 京都薬科大学 理事長 武田 禮二

10:10 挨拶

京都薬科大学長 乾 賢一

10:20 祝辞

文部科学大臣 下村 博文 様（代理）

厚生労働大臣 田村 憲久 様（代理）

日本私立大学協会会長 大沼 淳 様（代理）

日本薬剤師会会長 児玉 孝 様

10:50 大学紹介

京都薬科大学副学長 後藤 直正

11:05 祝奏

管弦楽部「曲目：Etupirka（エトピリカ）」

11:10 学歌斉唱

・記念講演（躬行館T31講義室）

11:45～12:45

演題：「薬、サイエンス・創薬・こころ」

演者：成宮 周 先生（京都大学特任教授

メディカルイノベーションセンター長）

・祝賀会（中央講堂兼体育館）

13:15～14:45（受付開始12:45～）

13:15 挨拶

学校法人 京都薬科大学 理事長 武田 禮二

13:20 祝辞

日本私立薬科大学協会会長 井上 圭三 様

13:25 表彰

本学三世代家族記念表彰式

13:30 乾杯発声

京薬会会長 西野 武志 様

13:33 歓談

14:40 閉会の辞

京都薬科大学長 乾 賢一

2014年4月20日、学校法人京都薬科大学（理事長：武田 禮二）は、京都薬科大学（学長：乾賢一）にて、来賓および大学関係者約350名の参加を得て、創立130周年を祝賀する記念式典・記念講演・祝賀会を開催しました。

記念式典では、武田理事長が式辞を述べ（式辞の全文は2～3ページに掲載）、引き続き、乾学長が挨拶をいたしました（式辞の全文は3～4ページに掲載）。

祝辞では、下村博文文部科学大臣（代読：丸岡充薬学教育専門官）、田村憲久厚生労働大臣（代読：成田昌稔大臣官房審議官）、日本私立大学協会大沼淳会長（代読：小出秀文事務局長）、日本薬剤師会児玉孝会長（本学卒業生）の4名の来賓からそれぞれ頂戴しました。

祝辞の後、本学後藤副学長が「大学紹介」を行いました。内容は、「これまでの本学の歩み」に始まり、最近のトピックス（英語による卒業論文発表会等グローバル教育、薬剤師国家試験合格状況、大学院教育等）、最近

10年間（創立120周年以降）の施設整備状況等を紹介いたしました。式典は、本学管弦楽部による祝奏とユーベルコール部の学歌斉唱で閉式となりました。

【理事長 式辞（全文）】

本日は、京都薬科大学創立130周年記念式典を挙行政するに当たり、文部科学省、厚生労働省をはじめ、私立大学協会、私立薬科大学協会、関係大学の皆様、さらには関係企業、病院、薬局の皆様、加えて地域を代表する多くの方々をご来賓としてお迎えし、本法人の元役員、本学の名誉教授、教職員OB、同窓生の皆様のご列席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

本学は、1884年、京都府御雇ドイツ人教師ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者18名が設立

した、京都私立独逸学校をその礎としています。その後1892年に私立京都薬学校、1919年に京都薬学専門学校を経て、1949年に京都薬科大学に昇格し、1965年に大学院薬学研究科修士課程が、1977年に大学院薬学研究科博士後期課程が設置され、2006年には6年制薬学部薬学科を設置、更に2012年には4年制の大学院薬学研究科薬学専攻博士課程と3年制の大学院薬科学専攻博士後期課程を設置して薬学部と大学院の充実をしております。

本学の建学の精神は、「愛学躬行」でございます。愛学躬行とは学問を愛し、自ら実践するという意味です。この建学の精神「愛学躬行」を継承し、「国民の健康を支える医療人として、生命の尊厳を基盤とし、人類の健康と福祉に貢献すること」を教育理念として発展をしております。

2006年には薬学教育制度改革の大きなうねりの中で、本学は、6年制教育のみを選択しました。薬学教育6年制のスタートに合わせ、本校地ですべての授業が行えるようにと愛学館の建設、臨床薬学教育研究センターの建設および躬行館の建設を行い、更には学生の憩いの場としての中央庭園を設置しました。このように6年制教育を円滑に実施するための教育研究の施設整備を行ってきました。

また、南校地には、昨年私立薬系大学で最先端のバイオサイエンス研究センターを竣工させ、更に現在、アメニティ施設を充実させるべく厚生・実験棟を建設中でございます。

以上のような、ハード面の充実とともに、2007年度からは5年間の第1期中期計画である「躬行プラン」を策定し、「時代が要求する医療薬学を切り拓く人材を育成する大学」「小さいながらも先端的で高度な研究を行える大学」をあるべき姿として、各課題を推進しております。現在、2012年度から5年間の第2期中期計画を推進中でございます。第2期中期計画では、本学の目指すべき姿は「ナンバーワンの薬学教育と研究」とし、6年制の薬学教育研究モデルを作る使命があるという覚悟でサイエンスとしての医療薬学を発展させた上で総合科学としての薬学の追及および自立した学生の育成をめざし、各課題を推進中でございます。

6年制教育を受けた卒業生は、本年3月で第3期生まで輩出しましたが、薬剤師国家試験の合格率および就職率とも非常に高く、高度な薬剤師養成としての役割を十分に果たしております。

本学は、6年制薬学部の存在意義を認識し、質の高いチーム医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに大学院博士課程では基礎薬学、臨床薬学の研究者を養成することをめざして、社会からの負託に真摯に答えていく活動と運営の努力を続け、10年、20年先を見据えながら、今後着実にその成果、実績を積み重ねてまいります。

このたび本学が創立130周年を迎えることができましたのは、歴代の同窓生である京薬会の皆様、地域社会

の皆様の温かいご支援と歴代の教職員の努力のおかげであります。大きな節目を機に、私立薬科大学としての存在意義を自覚し、役員、教職員一同、気持ちを新たに大学の発展に尽くしてまいります。本日もご臨席賜りましたご来賓の方々をはじめご列席の皆様に重ねて感謝申し上げますと共に、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、この度の記念事業へのご寄附に御礼申し上げ、ご参会の皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして、私の式辞とさせていただきます。

2014年4月20日

学校法人 京都薬科大学

理事長 武田 禮二

【学長 挨拶（全文）】

本日ここに、文部科学省、厚生労働省をはじめ、多数のご来賓のご臨席のもと、京都薬科大学創立130周年記念式典を挙げてまいりますことは、本学にとりまして誠に大きな喜びであります。ご多用の中、ご出席いただきました皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

私は、4年前に本学学長を拝命いたしましたが、創立130周年の記念式典において挨拶を申し上げる機会に恵まれたことを、大変光栄に存じるとともに、輝かしい歴史と伝統を築き上げてこられた歴代の法人役員、教職員、そして卒業生の皆様に感謝申し上げる次第であります。

130年の歴史を紐解いてみますと、本学は1884年（明治17年）、ドイツ人教師ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者18名が設立した京都私立独逸学校に始まります。その後、幾多の変遷を経て今日の京都薬科大学に至っており、優れた薬剤師の養成と薬学研究者の育成を目指して来ましたが、これまでに輩出した卒業生は約22,000人、このうち約15,000人の方々が現在、国内外の大学、医療関係、製薬企業、行政等の分野において活躍中であります。このことは、本学にとりまして、何物にも代え難い大きな財産であります。また、教育活動とともに活発な研究活動を展開し、文部科学省の21世紀COEプログラムに採択されるなど、私立薬系大学を代表する輝かしい成果をあげて来ましたが、

一方、医療を取り巻く環境が大きく変わり、医薬分業の進展や医療の高度化・多様化に伴って、社会のニーズとして薬学6年制の議論が2002年から本格的に始まりました。本学では6年制一本にするのか、6年制と4年制を併置するかについて激論がかわれ、最終的に理事会において6年制に一本化することが決定されたと聞き及んでいます。この決断は、薬学・薬剤師の将来を見通した勇気ある英断であったと、今、私はたいへん誇らしく思っております。

現在、政府の重点政策の一つに教育再生があげら

れ、大学改革実行プランが進行しています。そして、大学教育の質的転換、すなわち主体的に学び・考え・行動する人材を育成する大学・大学院教育への転換、グローバル化に対応した人材育成、研究力の強化など様々な角度から改革が求められています。このような現状に対して、質の高い薬剤師の養成を目指して2006年に始まりました薬学6年制は、現在の大学改革実行プランと相通ずるところがあり、我が国の教育改革に先導的役割を果たしていると言えます。この数年間の6年制薬学教育改革の歩みを振り返りますと、薬学コア・カリキュラム、薬学共用試験、病院・薬局での長期実務実習など、薬学の新しい歴史を切り開く道の中で、数々の苦労が思い出されます。改革の目玉の一つである長期実務実習は、医療現場を持たない薬科大学にとりまして最大のネックでありましたが、病院、薬局のご協力、ご尽力のお陰で、全国共通の教育システムとして機能しております。そして2012年3月に、6年制薬学部初めての卒業生が誕生し、本年3月には第3期生を社会に送り出すに至っています。

ここで、京都薬科大学の取り組みについて少し紹介させていただきます。本学では、問題発見・問題解決型の教育に注力し、Science(科学)、Art(技術)、Humanity(人間性)のバランスのとれた教育を実践し、高度の専門的能力と研究能力を身につけた薬剤師「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を目指しています。6年制教育のワンサイクルが終わった時点で、いち早くカリキュラムの見直しを行い、2012年度入学者から新カリキュラムに移行しました。そして、教養教育と語学教育の充実、少人数対話型授業を含む初年次導入教育の改革を重点的に進めています。また、3年次後期から分野に所属して研究に取り組んでいます。6年次の卒論発表会を昨年から英語で行うこととしました。同時に、学術交流協定を締結している中国の瀋陽薬科大学、エジプトのアレキサンドリア大学の教員・学生を卒論発表会に招待しましたところ、討論・懇談は予想以上に盛況となり、本学学生達の適応能力の高さに感心しました。

一方、学部教育とならび重視しているのが大学院教育です。6年制薬学部の上に立つ4年制博士課程は、大学、医療現場、製薬企業における将来の指導者養成、すなわち薬剤師免許を持った薬学博士を育成するために極めて重要であります。本学では2012年に4年制博士課程(定員10名)を設置し、「基礎薬学コース」、「臨床薬学コース」を設けるとともに、医学系大学と連携してがん研究に特化した「がんプロコース」、医薬品医療機器総合機構(PMDA)と連携した「レギュラトリーサイエンスプログラム」を設けて、基礎薬学、臨床薬学の研究者を養成すると共に、個々の研究室の垣根を越えた研究指導を展開しています。本学の新しい4年制博士課程は、大学院生に対する支援も充実しており、国立大学の薬学研究科にも勝るとも劣らない規模と内容の大学院に発展しようと自負しています。加

えて、若手教員の活躍が目覚ましく、現在3名が海外留学中であり、また国際学会等での発表件数も着実に増加しています。グローバルな研究活動は、大学からの支援策が功を奏しており、若手教員のモチベーションや研究力向上につながっています。このように、本学は単科大学の特長、強みを活かしながら、6年制薬学の教育・研究モデル校を目指して、今、力強く前進しています。現在、薬剤師の養成は、医師とは異なり私立大学の寄与が大きく90%以上を占めています。医師不足に端を発し、チーム医療が進み薬剤師への期待が増す中で、質の高い薬剤師を養成して安全・安心の医療を支えているのは、まぎれもなく私立大学であります。その上で、京都薬科大学は、解決すべき様々な課題を抱えながらも、10年後、20年後における薬学・薬剤師の社会的役割を見据えて、国民が真に納得するような薬学6年制の成功に向けて邁進する所存であります。

本日は京都薬科大学創立130周年記念式典にあたり、本学の建学の精神「愛学躬行」を思い起こし、これまでの重要と思われる出来事、薬学6年制の取り組み並びに将来展望について私見を述べさせていただきました。本日もご列席の皆様には、今後とも京都薬科大学の歩みを温かく見守り、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

2014年4月20日
京都薬科大学長 乾 賢一

記念講演では、「薬、サイエンス・創薬・こころ」と題し、成宮周先生(京都大学特任教授メディカルイノベーションセンター長)による講演が行われました。会場となりましたT31講義室は、来賓をはじめ約400名の多くの聴衆にご参加いただき熱気溢れる講演会となりました。また、Q21およびQ31講義室を中継会場とし、約100名の学生と、T31講義室に入場できなかった方々へ開放しました。成宮先生は「薬から新しいサイエンスを創出すること。また、そのサイエンスから新しい薬を創出することの重要性」について特に強調され、示唆に富んだ大変貴重な講演をいただきました。さらに成宮先生には、本学の建学の精神である「愛学躬行(Philosophia et Praktikos)」にも触れいただき、本学が目標とする「ファーマシスト・サイエンティストの育成」について、職員一同、想いを新たにしましたところでした。



祝賀会では、本学理事長の挨拶の後、日本私立薬科大学協会井上圭三会長から祝辞を頂戴しました。井上会長からは「京都薬科大学が加盟校の中で2番目に古い伝統と歴史のある大学であり、私立薬科大学や薬学部の教育・研究の牽引役として引き続き期待している」とのお言葉を頂戴しました。

井上会長の祝辞の後、本学に三世代に渡って在籍されているご家族に対して記念表彰が行われ、武田理事長から記念品が贈呈されました。今回は創立120周年以降に本学在籍三世代となられました2組のご家族を表彰させていただきました。



京薬会西野武志会長による乾杯の発声の後、祝賀会が始まり、和やかに歓談が行われました。久しぶりに再会された卒業生の間でも旧交を温める場となりました。

若干、天候が心配されましたが、大きなトラブルもなく、記念式典・記念講演・祝賀会を無事に終えることができました。これもひとえに本学関係者の皆様のご尽力

の賜物と存じます。本学はこれからも140周年、150周年と着実に歴史を刻んでいけるよう、本学職員全員が心一つにして邁進していく所存です。今後も皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

本学は、創立130周年記念事業の一環として、築40年を経過して老朽化が目立つ中央講堂兼体育館を「新体育館兼中央講堂（仮称）」へ建て替える計画をいたしました。

この計画の建設事業費は約15億円を予定しており、そのうちの「1億円」については、皆様からのご寄附により充当させていただきたく、2013年3月1日～2014年4月20日までを募集期間としてお願いしたところであります。

その結果、募集期間を過ぎてもなお、多くのご寄附があり、当初の目標額を上回る「112,882,000円（2014年4月20日現在）」が寄せられました。この誌面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

新体育館兼中央講堂（仮称）の設備概要は次のとおりです。今回いただきました寄附金は、主に「エントランス部分の建設資金」として充当させていただきます。



完成外観予想図

《新体育館兼中央講堂（仮称）の概要》

◆建設場所

京都市山科区御陵中内町5番地（本校地内）

◆建設規模

鉄骨・鉄筋コンクリート造、地上3階建（体育館兼中央講堂部分は1階建）

建築面積 2,728㎡ 延床面積 3,653㎡

◆主要用途

体育館兼中央講堂 1,270㎡（舞台共）

健康科学分野諸室、トレーニングルーム・更衣室
シャワールーム他

◆主要設備

バスケットコート2面、バレーコート2面、バドミントンコート6面、卓球場



内観1 体育館利用時



内観2 講堂利用時

全自動可動席510席・固定席40席・手動席450席
（合計1,000席）

省エネ機能付き地熱利用空気調和設備・AV設備
省エネLED照明設備他

◆着工時期

2014年5月（旧建物解体着手）

2014年8月（新築工事着手）～2016年2月（竣工予定）

◆建設事業費

約15億円

新任のご挨拶



医療薬科学系 薬物動態学分野

さかえだ としゆき
教授 栄田 敏之

平成26年4月1日付で医療薬科学系薬物動態学分野に着任いたしました栄田敏之と申します。私は、昭和63年京都大学大学院薬学研究科博士課程を修了した後、国内の大手製薬企業にて約10年間、DDS開発と探索薬物動態研究に従事させていただき、この間、平成3年より1年間余り、米国カンザス大学にて研究する機会をいただきました。続いて、神戸大学医学部附属病院、あるいは同大学大学院医学系研究科にて約9年間、准教授、薬剤部副部长、治験管理センター主任として、医学教育、薬剤部業務に従事させていただきました。平成19年からは京都大学薬学部にて6年制教育プログラム構築に携わる機会をいただき、この間、(独)医薬品医療機器総合機構の専門委員(薬物動態担当)として承認申請業務に関わる機会にも恵まれました。

薬剤師の養成のための薬学教育において、医療薬学を中心とした専門教育及び実務実習の充実を図ることが重要であるという論議を経て、平成16年、学校教育法が一部改正され、薬学教育の修業年限が6年に延長されたことについては今更申し上げることはありません。このような薬学教育の大改革に至った背景とその理念を的確に把握して教育を実践することは容易ではないのかもしれませんが、本学の建学精神である「愛学躬行」を肝に銘じ、真に有用な薬学人の育成を介して社会貢献したいと考えております。私は、上述のとおり、医薬品の創出、承認申請、適正使用、さらには薬学教育と医学教育に携わってまいりました。研究内容という点では、薬物動態学の基礎理論構築、創薬薬物動態、個別化医療と多岐に渡りますが、常に基礎と臨床の橋渡しを意識ながら、薬物動態学を多元的体系的に研究することを目標としておりました。これらの経験を生かして研究教育に邁進する所存ですので、本学の教職員の皆様、卒業生の皆様におかれましては、先輩として、今後ともどうぞ宜しくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



基礎科学系 一般教育分野

じつかわ まりこ
教授 實川 真理子

平成26年4月1日付で基礎科学系一般教育分野に着任いたしました。主にコミュニケーション論と英語を担当します。学生諸君が、外国語を通して、自文化を客観的に捉える視座と、多様な背景を持った人々と協業する手段を獲得し、薬学研究や薬剤師として医療に従事する将来の可能性を広げるための基礎作りに、力をいれて参りたいと存じます。

私は、東京大学文学部・同大学院でコミュニケーションの研究をしていましたが、革新され続けるITを理解しながら研究を発展させようと合衆国に留学しました。留学先のスタンフォード大学はシリコンバレーの中心に位置し、大学発の技術とアイデアが世界を変えていくのを目の当たりにしました。この経験から、グローバルイノベーションが喧伝され国境などの従来の境界の浸透性が高まる中で、逆説的に重要性が増す文化を研究に取り入れたいと考えるようになり人類学に転学科し、国家の根幹であると

同時に最も私的である、性と生殖の意思決定を研究テーマとしました。

20世紀の終わりは、国際協力では個人の人権を中心に据える努力が始まった時期で、人口分野も、従来の量的管理から、教育を受けた個人が根拠ある情報提供を受けてリプロダクティブ・ライツを実現するIECアプローチに転換されました。この機に文化の研究者も国際協力の現場に出るべきと、国際開発機構から国連人口基金に派遣していただき、開発独裁政権が崩れ、宗教や伝統勢力が復活する中で性と生殖の問題に取り組む政府やNGOの支援にあたりました。ついで、国連アジア太平洋経済社会委員会でジェンダー視点を政策決定に活かす作業に従事し、その後、国連開発計画でHIV感染予防と感染者を支える共同体の強化プロジェクトに携わりました。日本に帰国後は、玉川大学文学部で国際協力と社会科学分野を担当してきました。

今般、京都薬科大学で、薬剤師として医療に携わろうとする若い世代と学ぶ機会をいただいたことに感謝いたします。キャンパスでの教育はもとより、海外での活動や国際交流に関心をもつ方々が、不安なく挑戦していただける下地作りにも貢献していきたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



病態薬科学系
薬理学分野

ふじい まさのり
准教授 藤井 正徳

平成26年4月1日付で薬理学分野の准教授に昇進させていただきました。私は、平成13年に本学を卒業し、河野茂勝教授（現 本学名誉教授）、奈邊健助教授（現 摂南大学薬学部教授）のご指導の下、平成15年に本学修士課程、平成18年に博士課程を修了いたしました。同年4月より本学薬理学分野の助手（平成19年より助教）として、学部・大学院における薬理学および関連科目の講義、実習ならびに研究指導に携わって参りました。平成24年4月からは大矢進教授のご指導の下、引き続き教育・研究に取り組んでおります。

研究テーマとしては、学部学生時代より一貫して、ヘアレスマウスを用いたアトピー性掻痒モデルの開発とその発症機構の解析を行なっております。アトピー性皮膚炎は乳幼児期に多発する皮膚疾患で、重度かつ慢性の痒みを特徴とします。しかしながら、本疾患の痒みに対して有効な治療薬が未だないのが現状です。これまで私は、食餌誘発性のユ

ニークなアトピー性掻痒マウスモデルを開発し、本モデルを用いて薬理学的研究を行なってきました。現在は、これまでの知見を発展させ、アトピー性掻痒の分子機構を解明するとともに新規鎮痒薬ターゲットを発見するべく、学生とともに日夜研究に励んでおります。

教育については、「薬理学A・B・C」、「先端薬理学概論」および「薬理学実習」の一部を担当しております。先の薬剤師国家試験では、従来の暗記中心の学習では歯が立たないような思考力や応用力を問う問題が多く出されました。学生が薬理学に興味を持ち、深く理解できるような講義を実施するよう努めて参ります。

京都薬科大学が目指すScience（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材育成および学術研究の推進とともに、研究者の養成および高度の専門的能力を有する人材（ファーマシスト・サイエンティスト）を養成するため、本学の教育・研究指導者として高い意識を持ち、粉骨砕身努力する覚悟です。また、本学出身者としての誇りを持って大学の様々な活動にも積極的に取り組む所存です。若輩者ではございますが、今後も皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

京 薬 会 だ よ り

<2014年度 京薬会代議員総会の開催>

2014年度京薬会代議員総会を4月26日（土）に開催しました。本年は京薬会選出京都薬科大学評議員改選の年にあたり各地区より14名の新しい評議員が選出されました。

午前中の改選された支部長による支部長会では新たに就任された方々の自己紹介に引き続き、現在の京薬会ならびに支部会活動の抱える諸問題について、活発な議論が交わされました。

また、代議員も改選の年にあたり、午後の新しく選出された代議員による代議員総会では、2013年度事業報告、2013年度決算、2014年度事業計画と予算案、そして京薬会会則の一部改正案が諮られ、いずれも承認されました。最後に、新しい本部役員が承認、紹介され、総会を終了しました。

<ホームカミングデー開催予定>

本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月3日（文化の日）に開催します。昨年は日本薬剤師会会長、児玉孝氏（1970年卒）に講演をいただき100名を超える皆さんの参加を得ることができましたが、本年も、更に多くの卒業生の皆さんの里帰りをお待ちしております。

第5回KPUシンポジウム

KPUシンポジウム実行委員会

2014年4月30日（水）、京都薬科大学・躬行館T31講義室において第5回KPUシンポジウムを開催いたしました。特別講演として三重大学医学部附属病院・薬剤部の村木優一先生ならびに小野薬品工業株式会社・医薬品化学部の長縄厚志先生をお招きして、それぞれ「京都薬科大学で学んだ研究マインドやスキルは臨床薬剤師の新時代を拓く～すべては患者さんのために～」および「創薬研究～プロスタグランジン受容体拮抗剤の創出～」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として中山祐治教授、山岸伸行准教授、中村誠宏准教授、石原慶一講師および西田健太朗助教の5名の学内教員には最新の研究成果について発表して頂きました。合計397名の多くの学生や教員の方々がご参加くださいました。今回は特に、1年次生の参加者が多かったのが特徴です。また、シンポジウム終了後に開催した交流会では、多くの学部学生が特別講演演者の村木先生や長縄先生、また一般講演演者の先生方を囲んで質問をしており、18時30分頃まで活発な討論が続きました。今回も座長先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPUシンポジウム実行委員会一同



三重大学医学部附属病院 村木 優一 先生



小野薬品工業株式会社 長縄 厚志 先生



中山 祐治 教授



乾 賢一 学長



山岸 伸行 准教授



中村 誠宏 准教授



石原 慶一 講師



西田 健太朗 助教

シンポジウムにおける講演および茶話会の様子

シンポジウム概要

日時：2014年4月30日（水） 13:30～17:30

場所：京都薬科大学躬行館 T31講義室

開会の挨拶

乾 賢一 学長

特別講演（1）13時40分～14時30分

座長：後藤 直正 教授

「京都薬科大学で学んだ研究マインドやスキルは臨床薬剤師の新時代を拓く

～すべては患者さんのために～」

三重大学医学部附属病院薬剤部

副薬剤部長 村木 優一 先生

一般講演（1）14時30分～15時00分

座長：長澤 一樹 教授

「エンドサイトーシスによる線虫受精卵の非対称分裂制御」

中山 祐治 教授（生化学分野）

一般講演（2）15時10分～15時30分

座長：濱 進 講師

「カルシウム結合タンパク質Sorcinによる多剤耐性獲得機構の解析」

山岸 伸行 准教授（RIセンター）

一般講演（3）15時30分～15時50分

座長：小島 直人 講師

「天然薬物を素材とした生体機能性成分の探索」

中村 誠宏 准教授（生薬学分野）

一般講演（4）15時50分～16時10分

座長：高田 和幸 助教

「オミクス解析を利用したダウン症マウスモデルの胎児および

成体脳での病態関連分子の同定」

石原 慶一 講師（病態生化学分野）

一般講演（5）16時10分～16時30分

座長：藤井 正徳 准教授

「抗がん剤オキサリプラチンによる末梢神経障害発症機序の解明」

西田 健太郎 助教（衛生化学分野）

特別講演（2）16時40分～17時30分

座長：赤路 健一 教授

「創薬研究～プロスタグランジン受容体拮抗剤の創出～」

小野薬品工業株式会社水無瀬研究所医薬品化学研究部第一研究室

長縄 厚志 先生

閉会の挨拶

長澤 一樹 教授

茶話会 17時20分～18時30分

2013年度授業評価集計結果の報告

授業評価検討委員会

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価をセメスター毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは、冊子にまとめて公開し、図書館に収蔵します。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

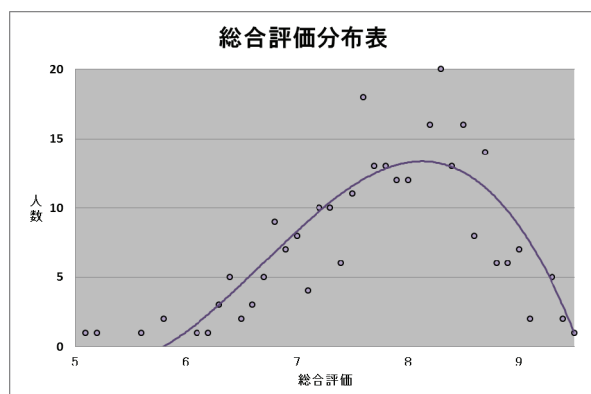
2013年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

◆設問項目別授業評価の全体平均は下表のとおりであった。

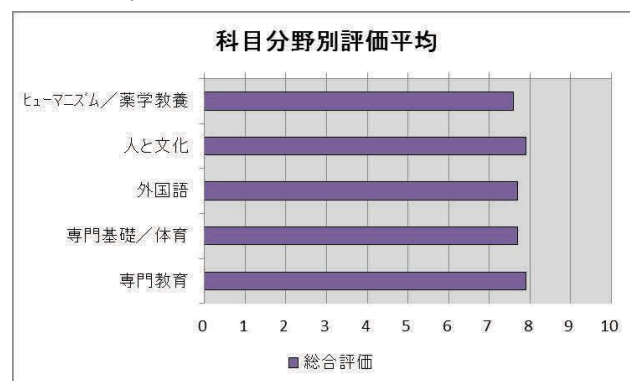
2013年度	
設 問	評 価 (5段階)
Q01.話し方が明瞭で聞き取りやすかった。	4.2
Q02.説明がていねいでわかりやすかった。	4.1
Q03.板書、液晶プロジェクターなどが適切でわかりやすかった。	4.0
Q04.教科書・参考書やプリントなどの教材が適切に使用されていた。	4.2
Q05.授業はシラバスに沿って進められた。	4.2
Q06.重要事項を強調して説明していた。	4.1
Q07.よく準備され、熱意が感じられた。	4.2
Q08.私語や態度の悪い学生に注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた。	4.0
Q09.授業に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.1
Q10.この授業に興味を持つようになった。	4.0
Q11.教員は学生の質問や意見に対して適切に対応した。	4.1
項 目 平 均	4.1

※2012年度項目平均「4.1」

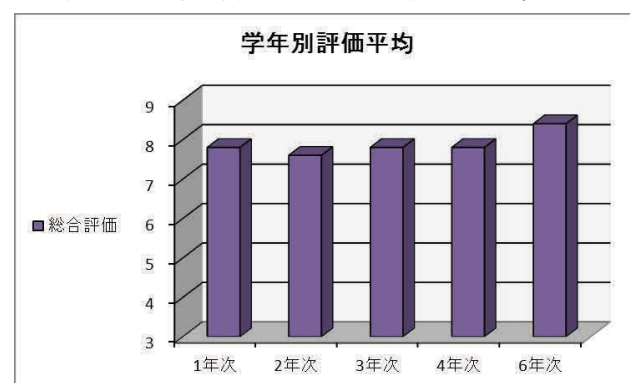
◆教員個人別評価の分布は、平均値7.85であった。



◆総合評価と授業科目分野区分との関係は、「ヒューマンズム/薬学教養」が他に比べやや低い結果であった。



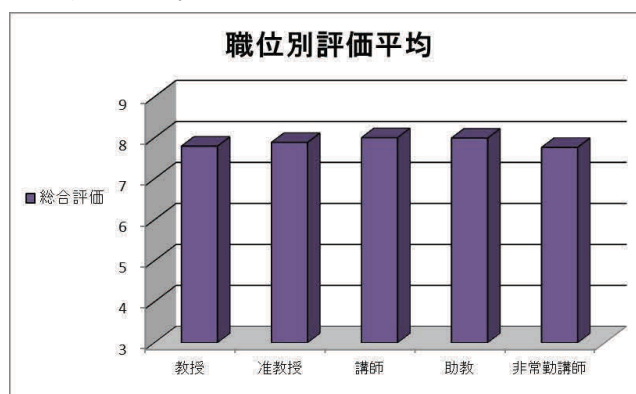
◆学年別平均は、6年次でやや高い結果であった。



※1～2年次は「新カリキュラム」に移行。

※5年次に授業評価アンケート対象科目はありません。

◆職位との関係では、講師の評価が他よりやや高く評価される結果であった。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生へ感謝いたします。また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立ていただければ幸いです。

開 館 日 程

2014年 7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2014年 8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2014年 9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

休館
 8:30-21:00
 8:30-17:00
 10:00-17:00
 休館=館内整備

コトバの「豆クイズ」～漢字編3～

(出題者 鈴木 栄樹)

ふだん何気なく使っている平仮名・片仮名ですが、日本語の表記のうえでたいへん便利なものです。中国から取り入れた表意文字である漢字の草書体をさらに簡略化して表音文字としたものです。

このうち平仮名は、はじめは主として女性が用いたため「女手」「女文字」と呼ばれたことはご存じかもしれません。種々の異体字がありましたが、1900（明治33）年の「小学校令施行規則」改正で、現行字体の48字に統一されました。あまりにも書体が崩されているため、元の漢字が何か見当がつけられない平仮名も少なくありません。さて、問題です。次の漢字はどの平仮名になっているのでしょうか？（解答は13ページに掲載）

- ① 武 ② 称 ③ 幾 ④ 良 ⑤ 部 ⑥ 川
 ⑦ 遠 ⑧ 无 ⑨ 衣 ⑩ 之 ⑪ 奴 ⑫ 己

2014年度KPU_{NEWS}編集委員は下記の皆さんにお願いすることとなりました

<委員長>

鈴木 栄樹（教 授）

<委員（教育職員）>

大矢 進（教 授）

藤室 雅弘（教 授）

藤原 洋一（准教授）

長谷井友尋（助 教）

<委員（事務職員）>

井本富美代（学生課長）

川勝 章広（企画・広報課課長代理）

<委員（学生）>

とがみ 砥上 宏子（3年次）

村田 紘規（3年次）

岩崎 仁志（2年次）

2014年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

2014年度の試験日程は【表1】のとおりです。

各学年とも進級・卒業要件をよく確認するようにしてください。試験日時を間違えるケースが時折見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行を受けてください。

選択科目（人と文化、選択外国語）の不合格科目は、再試験手続をしなかった場合には放棄とみなし、翌年度の前年次科目再試験を受験することができなくなります。放棄した科目は平均点の算出対象外となりますが、履修登録した年度内は平均点に算入されます。

シラバス「学修の手引き」の項にも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでおいてください。

【表1】

年	試 験	試験期間	合格発表等	手続等
2014	4年次生 前期試験	7月15日(火)～ 7月23日(水)	8月25日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3、6年次生 前期試験	7月23日(水)～ 7月31日(木)		
	2～4年次生 前年次・前々年次科目 再試験	9月1日(月)～ 9月4日(木)	成績通知書を配付	4月24日(木)・25日(金)
	1～4、6年次生 前期科目再試験	9月8日(月)～ 9月12日(金)	成績通知書を配付	前期試験の再試験受験 手続期間:8/26(火)・27(水)
	4年次生 薬学共用試験 OSCE本試験	12月13日(土)・14日(日)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
2015	6年次生 薬学特別演習本試験	1月7日(水)・8日(木)	1月19日(月)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 後期試験	1月9日(金)～ 1月16日(金)	1月27日(火)に発表予定 (Web公開)	—
	1～3年次生 後期試験	1月19日(月)～ 1月27日(火)	2月10日(火)に発表予定 (Web公開)	—
	4年次生 薬学共用試験 CBT本試験	1月22日(木)・23日(金) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	6年次生 薬学特別演習再試験	2月4日(水)・5日(木)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	薬学特別演習の再試験受験 手続期間:1/20(火)・21(水)
	4年次生 後期科目再試験	2月4日(水)～2月9日(月)	2月16日(月)に発表予定 (Web公開)	後期試験の再試験受験 手続期間:1/28(水)・29(木)

2015	1～3年次生 後期科目再試験	2月20日(金)～ 2月27日(金)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	後期試験の再試験受験 手続期間:2/12(木)・13(金)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間:1/28(水)・29(木) 【後期科目】 再試験Ⅱ受験 手続期間:2/17(火)・18(水)
	4年次生 薬学共用試験 CBT追・再試験	3月3日(火)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	4年次生 薬学共用試験 OSCE追・再試験	3月5日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

定期試験、4年次後期再試験等の発表で使用するWeb公開画面が、今年度から変更となります。詳細については事前にガイダンスを行いますので、必ず出席してください。

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から3～6年次生は分野主任から受け取ってください。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区 分	年 次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の 成績通知書	全学年	10月2日(木)～ 10月9日(木)	10月下旬
後期終了時の 成績通知書	6年次	2月17日(火)～ (卒業査定会終了後配付します)	—
	1～5年次	3月20日(金)～ (進級査定会終了後配付します)	4月中旬～下旬

コトバの「豆クイズ」(11ページ)の解答

以下に、48字を掲げておきますので、正解を探してみてください。

和わ	良ら	也や	末ま	波は	奈な	太た	左さ	加か	安あ
為ゐ	利り		美み	比ひ	仁に	知ち	之し	幾き	以い
	留る	由ゆ	武む	不ふ	奴ぬ	川つ	寸す	久く	宇う
恵ゑ	礼れ		女め	部へ	称ね	天て	世せ	計け	衣え
遠を	呂ろ	与よ	毛も	保ほ	乃の	止と	曾そ	己こ	於お
无ん									

大学院トピックス

研究科長 小暮 健太郎

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

- 3月10日** **文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
2013年度成果発表会開催**
教員・大学院生・学部生がポスター発表（ショートプレゼンテーション）を行い各自の研究成果を公開し討論しました。
- 3月13日** **第1回英語セミナー開催**
学内教員による英語でのプレゼンテーション。大学院生、学部生（1年次生も参加）等が多数出席し、英語での活発な質疑応答が行われました。（詳細はP15に掲載）
- 3月15日** **学位記授与式**
薬学専攻博士後期課程5名、薬科学専攻博士前期課程3名が学位を授与されました。これからの活躍を大いに期待しています。
- 3月27日～30日** **日本薬学会134年会（熊本）参加**
本学学部学生及び大学院生が活発に発表を行い、11名の学生が優秀発表賞を受賞しました。
- 4月2日** **入学宣誓式**
薬学専攻博士課程9名、薬科学専攻博士前期課程2名、薬科学専攻博士後期課程2名が入学しました。
- 4月6日** **病院・薬局学内合同説明会に「大学院ブース」を設置**
大学院進学希望者からの質問等に対応しました。大学院への感心が高まっていることもあり多数の学生が、大学院教育・研究等について納得のいくまで質問をしていました。
- 4月9日** **第1回若手研究者セミナー開催**
主催：文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
共催：文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
若手研究者育成を目的として、学内および学外教員による研究発表を行いました。大学院生および学部生も多数参加し、様々な研究成果を見聞するとともに、プレゼンテーション力の向上にも大いに参考になりました。
- 4月30日** **第5回KPUシンポジウム開催。主催：KPUシンポジウム実行委員会**
招待者による特別講演、学内教員による一般講演を行い、大学院生、学部学生、教員が多数参加しました。招待者による、「京都薬科大学での学びが、新しい臨床薬剤師の新時代を拓いていく」との講演で、改めて各々が創造力・独創力を磨きリーダーとなる必要性を感じました。
- 5月9日** **課程によらない博士学位論文口述発表開催**
発表者は1名でしたが、25分の発表の後、30分程度の質疑応答が行われ、専門的に深く掘り下げられた質問に対して、説明・解説があり、大学院生・学部学生は、論文作成に対する責任の重さを実感していました。
- 5月13日** **第1回「医薬品評価科学特論」公開講義開催（大学院博士課程：がんプロコース）**
塩野義製薬株式会社臨床開発部臨床薬理学部門から輪嶋恵宏先生をお招きし、「臨床開発における医薬品評価」という演題でご講演いただきました。
- 5月20日** **第2回「医薬品評価科学特論」公開講義開催（大学院博士課程：がんプロコース）**
地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部から北田徳昭先生をお招きし、「薬剤師が行う臨床研究」という演題でご講演いただきました。
- 5月27日** **第3回「医薬品評価科学特論」公開講義開催（大学院博士課程：がんプロコース）**
独立行政法人医薬品医療機器総合機構から永井尚美先生をお招きし、「医療品承認申請と医薬品評価」という演題でご講演いただきました。



第1回 英語セミナー English Seminar 開催結果報告

研究科長 小暮 健太郎

2014年3月13日（木）17:00から、躬行館T21講義室において、第1回英語セミナーを開催しました。この英語セミナーは、本学大学院生および若手教員を主な対象として、英語によるプレゼンテーションの機会を設けようと企画したものであり、大学院生の英語教育と中期計画アクションプランの一部として実施しました。

【プログラム】

17:00～17:30

“Noninvasive and Effective Transdermal
Delivery of Macro-molecules by Iontophoresis”

小暮 健太郎 教授（薬品物理化学分野）

座長：大矢 進 教授（薬理学分野）

17:30～18:00

“A Viral Mechanism for Dysregulation of Post-translational Modifications
in Kaposi’ s Sarcoma-associated Herpesvirus Latency”

藤室 雅弘 教授（細胞生物学分野）

座長：中山 祐治 教授（生化学分野）



藤室教授の発表の様子

2名の教授が、それぞれの専門領域の研究成果を英語で発表しました。

開催前は、参加者が少ないのではないかと危惧しましたが、いざ開場してみると、参加者は予想を超え、およそ80名の教員・大学院生・学部学生が参加してくれました。多くの参加者（大学院生・学部学生含む）が英語での質問にトライするなど、意欲的な姿勢が印象的でした。

また、「今後も英語セミナーに参加しますか？」というアンケートに対して、多くの教員・大学院生・学生が「参加する」と答えてくれましたし、10名以上が「演者として発表も希望する」と答えてくれました。

今後、大学院生の英語教育の一環として、継続していきたいと考えています。



学内合同薬局・病院等説明会を開催しました！

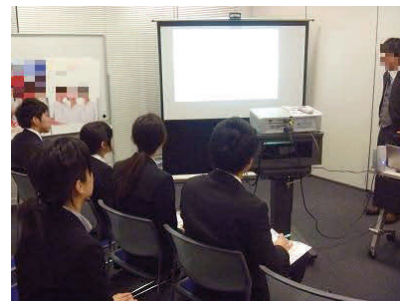
進路支援課

学内合同薬局・病院等説明会は、長期実務実習が終了したあとの今年4月6日（日）に、薬局や病院、自治体の採用担当者に本学にお越しいただき、学生との接点を持つ場として開催されました。

当日は躬行館の食堂とセミナー室を使用し、午前43、午後45の計88の薬局・病院等に参加して頂きました（詳細は下記参照）。

説明会には、本格的な就職活動を開始した6年次生を中心に、将来の就職を見据えた1～5年次生が、この貴重な機会を活用しようと集まりました。6年次生は午前172名・午後180名、1～5年次生は午前71名・午後64名、全体で午前243名・午後244名が参加しました（以上、延べ人数）。参加した学生からは、「広い視野を持とうと思った。どこが自分に合っているかは話を聞いてみないと分からないので、色々な人から話を聞こうと思った」などの感想が挙がっています。一方、薬局・病院等からは、「1～6年生まで参加していただき、どの学生さんも礼儀正しく、非常に意欲的でした」などの感想が寄せられました。また今回、新たな試みとして、進路選択の一つとして大学院の説明会も加え、学生からも好評を得ることができました。

進路支援部では、今後も学内外からのご意見をいただきながら、説明会をより有意義な機会にしていきたいと考えています。この機会を活かし、学生が充実した進路選択に臨めることを願っています。



業種	参加薬局・病院等 《午前（9：30～13：00）》
薬局	アイングループ アビスファーマシー イオンリテール ウエルシアホールディングス ウォルナット エビラファーマシー オーパス サエラ薬局 育星会カイセイ薬局グループ 京都コムファ 杏林堂薬局 キリン堂 グリーンファーマシー コクミン ココカラファインヘルスケア ザグザグ 総合メディカル ダイゴ ニチホス 日本調剤 ファルコファーマシーズ ファルメディコ 法円坂メディカル マルゼン薬局 みやこ薬局 ゆう薬局グループ
病院	大津市民病院 大津赤十字病院 京都医療センター 京都九条病院 京都市立病院 京都大学医学部附属病院 京都府立医科大学附属病院 協和会 草津総合病院 城山病院 蘇生会総合病院 武田病院グループ 日本パプテスト病院 みどりヶ丘病院 洛和会ヘルスケアシステム
自治体	京都市 大阪府
その他	京都薬科大学大学院
業種	参加薬局・病院等 《午後（14：00～17：30）》
薬局	アマノ アルカ エスマイル エバグリーン薬局（廣甚） 関西メディコ 共創未来グループ クオール クスリのアオキ クラフト クリエイトエス・ディー サンドラッグ サンプラザ加地 スギホールディングス たんぼぼ薬局 阪神調剤薬局 ファーマシィ ファーマライズホールディングス ブルークロス フロンティア ぼうしや薬局 マツモトキョシ メディカルー光 ユタカファーマシー
薬剤師会	山口県薬剤師会 和歌山県薬剤師会
病院	愛仁会 市立長浜病院 北野病院 岐阜大学医学部附属病院 九州大学病院 京都第二赤十字病院 倉敷中央病院 神戸市立医療センター中央市民病院 国立病院機構近畿グループ 生長会 高清水高井病院 姫路聖マリア病院 星ヶ丘医療センター 舞鶴共済病院 松下記念病院 三重大学医学部附属病院 若弘会 若草第一病院
自治体	神戸市 兵庫県 奈良県

2015年度 学部入学試験概要

入試課

2015年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。

受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1.入学定員・募集人員・入学試験日程

学 部	学 科	入 学 定 員
薬学部	薬学科	360名

	特 別 選 抜 推 薦 入 学		一 般 選 抜		
	指定校制	一般公募制	一般A方式 (センター前期)	一般B方式 (一般入試)	一般C方式 (センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願期間	2014年11月 1日(土) ～ 2014年11月 6日(木) 必着		2015年1月 6日(火) ～ 2015年1月16日(金) 当日消印有効	2015年1月 6日(火) ～ 2015年1月23日(金) 当日消印有効	2015年2月23日(月) ～ 2015年3月 6日(金) 当日消印有効
試 験 日	2014年11月10日(月)	2014年11月15日(土)	2015年1月17日(土) 2015年1月18日(日) 個別試験はなし	2015年2月3日(火)	2015年1月17日(土) 2015年1月18日(日) 個別試験はなし
合格発表日	2014年11月26日(水)		2015年2月14日(土)	2015年2月13日(金)	2015年3月13日(金)

2.検査項目等

推薦入学(指定校制)
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学(一般公募制)	配点
適性検査 Ⅰ：英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング) Ⅱ：化学(化学基礎、化学)	100 100
面接	40
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない科目があれば、不合格になることがあります。	

区分	一般A方式(センター前期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B 旧数学Ⅰ・旧数学A、旧数学Ⅱ・旧数学B <旧教育課程履修者経過措置>	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
国 語	国語(近代以降の文章のみ利用する)	100
理 科	化学(必須)、 物理、生物から1科目(選択) 化学Ⅰ(必須)、 物理Ⅰ、生物Ⅰから1科目(選択) <旧教育課程履修者経過措置>	200

区分	一般B方式(一般入試)	配点
数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、*数学A、数学B(数列、ベクトル)	200
外国語	英語(英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング)	200
理 科	化学基礎、化学	200

*数学Aの出題については、「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」の全範囲とする。

【注意】

推薦入学(一般公募制)適性検査Ⅱ：化学(化学基礎、化学)、一般B方式(一般入試)の「数学」、「理科」については新教育課程に基づいて出題し、旧教育課程履修者にとって必要と考えられる配慮を行う。

区分	一般C方式(センター後期)	配点
数 学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B 旧数学Ⅰ・旧数学A、旧数学Ⅱ・旧数学B <旧教育課程履修者経過措置>	200
外国語	英語(リスニングの成績は利用しない)	200
理 科	化学(必須)、 物理、生物から1科目(選択) 化学Ⅰ(必須)、 物理Ⅰ、生物Ⅰから1科目(選択) <旧教育課程履修者経過措置>	200

2015年度大学院薬学専攻博士課程および薬科学専攻博士後期課程の入学選考概要

2014年4月

	薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備 考
募集人員	(一般入試、社会人入試) 10名	(一般入試、社会人入試) 2名	
募集分野等	(募集分野等、協力分野) 20分野等	(募集分野、協力分野) 11分野	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格	(1) 大学(6年制薬学部)を卒業した者 (2015年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2) 4年制薬学部を卒業し、実務経験を2年以上有し、薬剤師免許を有している者(入学時において) (3) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者 (4) その他、本学大学院において6年制薬学部を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	(1) 修士(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科大学大学院において修士の学位を得た者(2015年3月末日までに当該学位取得見込の者を含む) (2) 外国において前号と同等以上と認められる課程を修了した者(修了見込の者も含む) (3) 大学を卒業したのち社会人として、大学・官公庁・企業・病院等において出願時に2年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本学大学院において認めた者 (4) その他、本学大学院において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	<薬学専攻> 募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野、代謝分析学分野、衛生化学分野、細胞生物学分野、生化学分野、病態生理学分野、病態生化学分野、薬物治療学分野、臨床薬理学分野、薬理学分野、臨床腫瘍学分野、薬剤学分野、薬物動態学分野、臨床薬学分野、臨床薬学教育研究センター (協力分野) 薬品化学分野、生薬学分野、薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 <薬科学専攻> 募集分野 薬品化学分野、生薬学分野、薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 (協力分野) 薬品製造学分野、薬品分析学分野、代謝分析学分野、細胞生物学分野、生化学分野、薬理学分野、薬剤学分野
主な出願書類	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業(見込)者を除く) (3) 卒業論文及び卒業論文の要旨(英文可)※1 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(2)の者は薬剤師免許の写し (6) 卒業・修了(見込)証明書※2 (7) 出願資格(3)の者は住民票※3	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本大学院修了(見込)者を除く) (3) 修士論文及び修士論文の要旨(英文可)※1 (4) 志願者名票・受験票 (5) 研究業績録 (6) 修了(見込)証明書※2 (7) 出願資格(2)の者は住民票※3	※1卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※2本学卒業・修了(見込)者を除く ※3学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可(任意)。その場合、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間 (夏季募集) 2014年7月11日(金) ～ 2014年7月25日(金) [必着] (冬季募集) 2015年1月6日(火) ～ 2015年1月14日(水) [必着]	試験日 (夏季募集) 2014年8月22日(金) (冬季募集) 2015年1月30日(金)	
	合格発表日 (夏季募集) 2014年8月29日(金) 午後予定 (冬季募集) 2015年1月30日(金) 午後予定		
	入学手続期限 2015年3月20日(金) 入学金納付期限, 授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
選考	面接試験 専攻に必要な研究能力について、卒業論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	専攻に必要な研究能力について、修士論文またはそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

2015年度大学院薬科学専攻博士前期課程の入学選考概要

2014年4月

		一 般 入 試	社 会 人 入 試	備 考
募集人員		5名		(募集分野)
		若干名	若干名	
募集分野		薬科学専攻 12分野	薬科学専攻 12分野	薬化学分野、薬品製造学分野、 薬品化学分野、生薬学分野、 薬品分析学分野、代謝分析学分野、 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野、 細胞生物学分野、生化学分野、 薬理学分野、薬剤学分野
出願資格		(1) 大学を卒業した者(2015年3月末日までに卒業見込の者を含む) (2) 本学が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者*1 (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者	大学卒業後、社会人として1年以上の社会的経験を有する者 (出願時において)	*1: 文部科学省の大学院入学基準を満たした専修学校専門課程の修了者又は、高等専門学校の専攻科を修了した者について、薬科学研究に必要な科目を履修した者を含む。
主な出願書類		(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業者を除く) (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 出願資格(3)の者は住民票※ (6) 卒業(見込)証明書	(1) 入学願書 (2) 成績証明書(本学卒業者を除く) (3) 志願理由書 (4) 志願者名票・受験票 (5) 実務実績書 (6) 卒業証明書	
関係日程	出願期間	2014年7月11日(金)～2014年7月25日(金) [必着]		※学術交流協定大学の卒業者(見込)は大学長等の正式な推薦状で代用可(任意)。その場合、入学手続き時に住民票の提出を求める。
	試験日	2014年8月22日(金)		
	合格発表日	2014年8月29日(金) 午後予定		
	入学手続期限	2014年9月11日(木)入学金納付期限 2015年3月20日(金)授業料前期分納付期限, 入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	_____	
	薬学専門	I～V系*2の12問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)	_____	*2: 系 I系 創薬科学系 薬化学分野、薬品製造学分野、 薬品化学分野、生薬学分野 II系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、 薬品物理化学分野 III系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野、 生化学分野 IV系 病態薬科学系 薬理学分野 V系 医療薬科学系 薬剤学分野
	小論文他	_____	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先

事務局入試課 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 TEL075-595-4678

学生相談室だより

学生課

ストレスとの付き合い方

学生生活、日常生活を送る上で、ストレスを感じることは決して珍しいことではないと思います。ストレスを感じる事柄や度合いは人それぞれ異なるので、安易に人と比較する訳にはいきません。また、適度なストレスは人間の成長につながる大切な要素でもあり、ストレスフリーが良いという単純な話ではありません。問題は過度にストレスをため込んでしまうことにあります。災害や事故、喪失体験など大きなストレスには目が向きやすく、対処しようと意識されやすいのですが、日々の生活の中で感じる日常的なストレスは、些細なものとしてあまり注意が向けられないことが多いのではないのでしょうか。しかしながら、こうした日常的なストレスも蓄積されると、積もり積もって心身に影響を及ぼしかねません。そんな事態に陥らぬよう、普段から自身の状態に目を向けて、必要な手立てを講じていただきたいと思います。

そこで、参考までにストレス対処法について、その一部をご紹介します。

◎ 気分転換を図る

楽しみや心地よさを感じられる時間・場面をつくることは、ストレスから自分を守る対処法のひとつです。

◎ 考え方・捉え方を見直してみる

人にはそれぞれ考え方・捉え方のクセがあります。例えば、“～すべき、～ねばならぬ、～が当たり前、0か100か”など。そうした自分の考え方のクセを見直し、別の捉え方を模索してみることが、ストレスをためにくくする上で有効です。

◎ スケジュールを見直してみる

予定が立て込みすぎてかなり疲労が蓄積気味の場合は、予定の優先順位を意識してみましょう。必要に応じてキャンセル、後回しにするなど、スケジュール調整を試みてみましょう。その時、紙に書き出して“見える化”すると、整理して考えやすいかもしれません。

睡眠の確保等、生活リズムの安定を心がけ、休養という予定を入れることも大切です。

◎ 話をしてみる

自分の体験や気持ちを話す（相談する）ことで、考えが整理されたり、気持ちが落ち着いたりすることもあります。また、とりたてて何かを相談するの

ではなく、誰かと他愛のない話をすることも有効です。

以上、紹介した対処法について、皆さんが既にご存知の事も多かったのではないのでしょうか。ただ、知っている事とできている事は必ずしも一致しない場合が多々あると思います。この機会に自身のストレスを自覚された方はこのような対処法を実践してみたいかがでしょうか。

学生相談室のご案内

相談室は、学生の皆さんが豊かで充実した学生生活を送れるようお手伝いをしたいと考えています。学生生活の中で生じる問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご利用ください。

■ サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。

疲れたとき、ホッとしたいときに、ひと休みできるくつろぎの空間として、学内での居場所のひとつに加えていただけたらと思います。飲食も可能です。

尚、ご利用にあたり以下のご願いがございました。

- カウンセラーが在室している時は、利用に際して声をかけてからご利用ください
- カウンセリング中でカウンセラーが対応できない場合は、その旨の表示を出しておりますので、そのままサロンをご利用ください（声かけは不要です）

■ 相談

学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをしたいと考えております。

■ 相談時間・相談スタッフ

学生相談室の相談（カウンセリング）は臨床心理士が担当しております。

○ 相談時間：月～金曜日 8:45～17:15

○ 相談スタッフ（臨床心理士）

建部 有里（月～金曜日 8:45～17:15）

瀬戸 和佳子（火曜日12:30～15:30）

角野 冴子（木曜日12:30～15:30）

小谷 典子（金曜日12:30～15:30）

■ 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。

相談は無料です。

○ 開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

○ 電話：075-595-4672

○ メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください

■ <お知らせ>

新たに常勤カウンセラーが着任しました



常勤カウンセラー
臨床心理士

たてべ ゆり
建部 有里

今年度、学生相談室に常勤カウンセラー（臨床心理士）として着任いたしました建部有里と申します。20数年来、大学の相談機関で学生相談に従事し

ており、このたび縁あって本学の学生相談室で勤務させていただくことになりました。これまで学生の方々の学業や進路について、対人関係や性格、恋愛や家族のこと、心身に関わること等、学生生活を送る中で出会う様々な事柄について、数多くの相談に応じてまいりました。本学においても、皆さんにとって身近なよろず相談先として、学生生活のサポートをさせていただきたいと考えております。

大学生活では様々な課題に直面する場面が少なからずあると思います。勉学（研究や実習）だけでなく、対人関係やクラブ活動等、課題となるものは人それぞれ異なるかもしれませんが、それぞれが課題に直面し、意欲的に取り組んだり、悪戦苦闘したり、右往左往したり、ひと休みしたり、時には助力や助言を求めたりしながら、少しずつ成長し乗り越えていくプロセスが学生生活の中で生じているのではないのでしょうか。そんな中で、自立した人間への成長を目指して一人で考え、思い悩むことも大切なことかもしれませんが、一人で考えることで同じ思考回路の中でぐるぐると考えてしまうといった悪循環に陥ってしまうことがあるかもしれません。そうした悪循環を断ち切るために、是非相談という選択肢も活用してみてください。そして、学内にあるいくつかの相談先のひとつとして、学生相談室を皆さんのリストの中に加えていただけたら幸いです。

学生相談室は、助言を受けるだけの場ではなく、どうしてそのような課題や悩みにぶつかったのか、どうすれば乗り越えられるのかについて一緒に考える場でもあります。相談を通して、皆さんが気持ちや考えを整理したり、自分を見直したりしながら問題解決や改善の糸口を見出していく手伝いをさせていただきます。また、相談するほどではないと思っておられる方も多いかもしれませんが、よし、どんなカウンセラーがいるか覗いてみよう、雑談しに行ってみよう、という方も大歓迎です。月曜から金曜日まで週を通して勤務しておりますので、気軽に足をお運びください。

どうぞよろしくお願い致します。

教育後援会からのお知らせ

学生課

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本「治療薬マニュアル」を4月に寄贈しました。実務実習前の事前学習として活用することができ、大変喜ばれています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

学校法人京都薬科大学2013年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2013年5月23日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

当年度に実施した主な施設整備事業では、南校地で進めていたバイオサイエンス研究センター建設工事が2013年5月29日に竣工し、SPFゾーンでの除菌、モニタリングを経て2013年9月から稼働開始しました。地下1階地上3階建て、延べ床面積は2,488.78㎡です。また、南校地では、老朽化していた危険物倉庫・廃溶剤倉庫を建替えたほか、厚生面では、硬式・軟式テニス部の部室等を新築し2013年9月から使用を開始しています。グラウンドは、水はけが悪く体育授業やクラブ活動に支障をきたしていたため、全天候型の人工芝に全面改修し、雨天後もすぐに体育の授業やクラブ活動での利用が可能になりました。薬用植物園補助園内には、温室を建設しました。室内温度の調整や水散布も自動制御のできる最新の温室です。その他上記の整備費に加え、南校地厚生・実験棟（仮称）の設計費、本校地に体育館兼中央講堂（仮称）の設計費等が建設仮勘定で支出されました。

その他の主な事業としましては、2013年度は文部科学省が管轄する補助事業に多く申請を行いました。その結果、私立大学戦略的研究基盤形成事業に新規1件、継続1件、（補助金額28百万円）私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費補助金）に5件（補助金額56百万円）、私立大学研究設備整備費補助金に2件（補助金額12百万円）、大学改革推進等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）に1件（補助金額11百万円）、総額107百万円の補助金を獲得しました。

また、第2号基本金には、体育館兼中央講堂の新築費・南校地整備事業費に5億円および教育研究総合センター等の整備事業費として3億円の合わせて8億円を組み入れました。さらに、第3号基本金には、本学の奨学金制度の充実を図る奨学基金に4億円、若手研究者の研究活動を積極的に支援する科学振興基金として1億円の合わせて5億円を組み入れました。

2013年度決算の概要は次のとおりです。

資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、入学者数が定員360名に対し378名となったことなどで予算額を若干上回り4,266百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より248名増（8.6%増）の3,118名となったことを主因に105百万円と予算額を上回りました。寄附金収入は、76百万円となりました。奨学金制度充実のための寄附募集および創立130周年記念募金に多数の方からご賛同いただきました。創立130周年記念募金は、受配者指定寄付金を加えると目標額（1億円）を超えるご寄附をいただきました。しかし、研究助成を目的とした企業等からの一般寄附金では、2013年度の経済情勢などの影響から19百万円と予算

額を10百万円下回りました。補助金収入は、経常費補助金を中心に450百万円でほぼ予算額通りとなりました。特に、前述のとおり補助金事業に積極的に申請したことが大きな要因です。資産運用収入は、155百万円で予算額を6百万円下回りました。資産売却収入は、各種事業資金の充実を意図した国債の売却差益の獲得及び利率の高い銘柄への移行を目的に買替えを行った結果、予算額を上回りました。事業収入は、企業等からの委託研究費が減少して予算を8百万円下回り35百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、教育職員の採用計画が遅れたこともあり、1,754百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、バイオサイエンス研究センターの竣工により光熱水費が増加し、180百万円になった他、研究費が補助事業の不採択等により総額で156百万円予算額を下回り1,200百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り235百万円となりました。施設関係支出では、バイオサイエンス研究センター新築工事完了払い、南校地整備計画Ⅰ期工事、グラウンド人工芝敷設などで、1,080百万円となりました。設備関係支出では、補助金事業に採択され購入した教育研究用機器備品及び実習用機器などの整備で496百万円となり予算額を大きく上回りました。資産運用支出は6,504百万円で、国債の買替え、新規購入及び資産運用収入の繰り入れの他、前述でも触れていますが、第2号基本金に800百万円、奨学基金に400百万円、科学振興基金に100百万円、減価償却引当資産に500百万円それぞれ組入れています。

以上により、次年度繰越支払資金は、2,031百万円となりました。

消費収支計算書総括表（表2）

帰属収入は、殆どの収入科目が予算額を上回り5,267百万円となりました。主な収入増の要因は、学生生徒等納付金収入が予算を61百万円増の4,266百万円になり、手数料収入も入学検定料が21百万円増の105百万円になり、国債の買替えによる資産売却差益が50百万円となったことなどです。また、基本金の組入れは、第2号基本金には、新体育館兼中央講堂建設・南校地環境整備計画費として500百万円、教育研究総合センター等の整備費に300百万円組入れ、逆にバイオサイエンス研究センター建設のための第2号基本金を第1号基本金に振替えを行いました。また、第3号基本金には奨学基金に400百万円、科学振興基金に100百万円を組入れるなど、計509百万円の基本金組入れとなりました。この結果、消費収入の部合計は、3,572百万円となりました。

一方、支出においては、人件費及び教育研究経費の減少により、消費支出の部合計は予算額を211百万円下回り4,167百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は595百万円の支出超過となりましたが、前年度からの消費収入超過額1,486百万円を加え、翌年度に繰越す消費収支差額は891百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断

の指標となる帰属収支差額（帰属収入合計－消費支出合計）が1,100百万円となり、帰属収支差額比率は20.9%となりました。

貸借対照表（表3）

有形固定資産は、バイオサイエンス研究センターの設置、教育研究用機器備品の購入などに伴う増から、機器備品の廃棄及び減価償却などに伴う減を差引きした結果、前年比594百万円増の14,678百万円になりました。その他の固定資産は、第2号基本金引当資産に321百万円、第3号基本金引当資産に509百万円、減価償却引当資産577百万円の組入れなどを行い、前年比1,553百万円増の14,916百万円となりました。また、流動資産は、現金預金が1,004百万円減少し、前年比1,070百万円減の2,278百万円となりました。

た。その結果、資産の部合計は31,873百万円となり、1,076百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債911百万円は全額退職給与引当金です。流動負債817百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,729百万円となっています。

基本金の部は、第3号基本金には奨学金制度及び科学研究振興基金制度の充実を図るため509百万円を組入れています。その結果、基本金の部合計は29,252百万円となり、前年比1,695百万円の増加となっています。

消費収支差額の部は、前述のとおり翌年度繰越収入超過額が891百万円となりました。

以上

表1 資金収支計算書（総括表）

2013年4月1日 ～ 2014年3月31日 （単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,205,200	4,266,754	△ 61,554	人件費支出	1,788,100	1,754,950	33,149
手数料収入	84,900	105,904	△ 21,004	教育研究経費支出	1,356,800	1,200,443	156,356
寄付金収入	140,000	76,927	63,072	管理経費支出	285,800	235,682	50,117
補助金収入	451,600	450,918	681	施設関係支出	1,089,500	1,080,850	8,649
資産運用収入	162,200	155,951	6,248	設備関係支出	385,200	496,681	△ 111,481
資産売却収入	0	1,250,400	△ 1,250,400	資産運用支出	3,393,100	6,504,427	△ 3,111,327
事業収入	44,500	35,932	8,567	その他の支出	807,500	815,614	△ 8,114
雑収入	90,100	113,682	△ 23,582	予備費	20,000	20,000	0
前受金収入	575,500	590,049	△ 14,549	資金支出調整勘定	△ 302,000	△ 253,079	△ 48,920
その他の収入	2,915,600	4,500,950	△ 1,585,350	次年度繰越支払資金	2,191,400	2,031,745	159,654
資金収入調整勘定	△ 687,600	△ 716,507	28,907				
前年度繰越支払資金	3,033,400	3,036,354	△ 2,954				
収入の部合計	11,015,400	13,867,317	△ 2,851,917	支出の部合計	11,015,400	13,867,317	△ 2,851,917

表2 消費収支計算書（総括表）

2013年4月1日 ～ 2014年3月31日 （単位：千円）

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	4,205,200	4,266,754	△ 61,554	人件費	1,773,400	1,753,009	20,390
手数料	84,900	105,904	△ 21,004	教育研究経費	2,007,800	1,893,519	114,280
寄付金	150,000	87,730	62,269	管理経費	386,800	337,469	49,330
補助金	451,600	450,918	681	資産処分差額	191,000	183,416	7,583
資産運用収入	162,200	155,951	6,248	(予備費)	20,000	20,000	0
資産売却差額	0	50,640	△ 50,640	消費支出の部合計	4,379,000	4,167,414	211,585
事業収入	44,500	35,932	8,567	当年度消費収支差額	△ 687,600	△ 595,328	△ 92,272
雑収入	90,100	113,682	△ 23,582	前年度繰越消費収支差額	1,427,400	1,486,414	△ 59,014
				基本金取崩額	0	0	0
帰属収入合計	5,188,500	5,267,513	△ 79,013	翌年度繰越消費収支差額	739,800	891,085	△ 151,285
基本金組入額合計	△ 1,497,100	△ 1,695,427	198,327				
消費収入の部合計	3,691,400	3,572,086	119,313				

表3 貸借対照表（総括表）

2014年3月31日現在 （単位：千円）

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	29,594,789	27,447,103	2,147,686	固定負債	911,468	913,409	△ 1,941
有形固定資産	14,678,020	14,084,012	594,007	流動負債	817,890	839,309	△ 21,419
その他の固定資産	14,916,768	13,363,090	1,553,678	負債の部合計	1,729,358	1,752,719	△ 23,360
流動資産	2,278,331	3,349,280	△ 1,070,948	基本金の部			
現金預金	2,031,745	3,036,354	△ 1,004,609	科 目	本年度末	前年度末	増 減
その他の流動資産	246,586	312,925	△ 66,339	第1号基本金	22,652,240	21,787,075	865,164
				第2号基本金	1,466,313	1,145,132	321,181
				第3号基本金	4,894,123	4,385,042	509,081
				第4号基本金	240,000	240,000	0
				基本金の部合計	29,252,677	27,557,250	1,695,427
				消費収支差額の部			
				科 目	本年度末	前年度末	増 減
				翌年度繰越消費収入超過額	891,085	1,486,414	△ 595,328
				翌年度繰越消費支出超過額			
				消費収支差額の部合計	891,085	1,486,414	△ 595,328
資産の部合計	31,873,120	30,796,383	1,076,737	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	31,873,120	30,796,383	1,076,737

(注) 減価償却の累計額の合計額 7,965,269千円

表1、表2、表3とも単位未満切捨て

平成26年度科学研究費助成事業 採択状況

学長 乾 賢一

研究資金には、毎年大学から支給される研究費のほか、国から助成される科学研究費（私学助成金を含む。）、財団から助成される研究費、企業からの寄付金や受託研究費などがあります。国からの研究費は文部科学省をはじめ厚生労働省、経済産業省などから助成されていますが、いずれも厳しい審査の結果、採択されます。最も金額の大きいのが文部科学省の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」と呼んでいます。）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

今年度は新規で43件申請して18件が採択されました（新規採択率41.86%）。

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は43件、交付予定総額は67,860千円となっています（他機関への転出者は除く。他機関からの転入者は含む。）

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。研究活動スタート支援は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題名	交付予定額 (千円)	新規・継続等
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域)	小暮 健太郎	薬品物理化学	画像解析による微弱電流依存性の細胞内動態亢進機構解明と革新的指向性DDSへの展開	2,990	新規
基盤研究(C)	矢野 義孝	臨床薬学教育研究センター	経口投与製剤の臨床薬物動態予測のためのファーマコメトリクス手法の構築	780	継続
〃	山岸 伸行	RIセンター	ポリグルタミン病における小胞体分子シャペロン発現調節機構の解析と治療への応用	1,300	〃
〃	上西 潤一	薬化学	Pd触媒を用いる連続キラルTHF環の立体制御とその展開;ゴニオン類の不斉全合成	1,430	〃
〃	藤室 雅弘	細胞生物学	細胞性およびウイルス性蛋白質の細胞内分解・成熟機構	1,690	〃
〃	長澤 一樹	衛生化学	P2X7受容体のスプライスバリエーションによる活性制御の変動と精神神経疾患との関連	1,560	〃
〃	高田 和幸	病態生理学	アルツハイマー病治療への臨床応用を目指した骨髄由来マイクログリア様細胞移植の解析	1,690	〃
〃	伊藤 由佳子	薬物動態学	個別化医療のためのフッ化ピリミジン系抗癌剤の定量的治療効果予測システムの構築	1,040	〃
〃	勝見 英正	薬剤学	活性酸素消去能に優れた白金ナノ粒子のDDS開発と転移性肝癌治療への応用	1,040	〃
〃	小原 幸	臨床薬理学	不全心筋におけるミトコンドリア品質管理因子の制御機構解明及び治療への応用	1,040	〃
〃	中山 祐治	生化学	Srcシグナルによる細胞分裂制御機構とその破綻による細胞癌化	1,300	〃
〃	石原 慶一	病態生化学	ダウン症マウスモデルの脳発達遅滞および記憶学習障害の分子基盤解明と炎症亢進	1,040	〃
〃	北村 佳久	病態生理学	酸化ストレスセンサーDJ-1を分子標的とした神経変性疾患治療薬の創製	1,690	〃
〃	加藤 伸一	薬物治療学	腸管マクロファージに発現するNOX1の機能および消化管炎症の病態との関連の解明	1,430	〃
〃	大矢 進	薬理学	免疫疾患、癌治療標的分子としての酸感受性カリウムチャネルの制御機構解明	1,430	〃
〃	松田 久司	生薬学	健胃生薬を素材とした食欲シグナル制御物質の開拓	1,560	〃
〃	小島 直人	薬品製造学	新規抗がん剤の創出を目指すデュアルコア型アセトゲニン類の構造活性相関研究	1,820	〃
〃	赤路 健一	薬品化学	基質型阻害剤との複合体構造解析に基づくペプチド型プロテアーゼ阻害剤の開発	1,560	〃
〃	西口 工司	臨床薬学	食道がんに対するビスホスホネート系薬剤を用いた新規治療法の開発	1,690	〃
〃	本橋 秀之	臨床薬学教育研究センター	データベース活用から抽出される重篤副作用のトランスポーターを考慮した発症機構解明	1,950	〃
〃	中田 徹男	臨床薬理学	脳心腎連関におけるエリスロポエチンのADMAを介する臓器保護機構の解明	1,170	〃
〃	鳥羽 裕恵	臨床薬理学	高尿酸血症合併慢性腎臓病治療におけるシルニジビンの有用性の検討	1,300	〃
〃	秋葉 聡	病態生化学	IVA型PLA2を病態制御標的分子として脂肪肝炎の発症機構と進展阻止に関する研究	2,080	新規
〃	芦原 英司	病態生理学	骨髄低酸素環境に潜む多発性骨髄腫幹細胞の根絶をめざした新規治療法の開発	1,430	〃
〃	細井 信造	薬学教育研究センター	誘起CDIに基づく実用的絶対配置決定法の確立とその起源解明への量子化学的アプローチ	1,690	〃
〃	安井 裕之	代謝分析学	抗糖尿病薬として内因性インスリンの作用を調整・増強する経口亜鉛製剤の開発	1,950	〃
〃	山本 昌	薬剤学	生体分解性マイクロニードルを用いたテリパチドの次世代型経皮吸収製剤の開発	2,210	〃
〃	渡辺 徹志	公衆衛生学	炎症・アレルギー性物質の長距離大気輸送及びその生物活性の解明	1,690	〃
〃	中村 誠宏	生薬学	メディシナルフラワーを素材とした潰瘍性大腸炎治療物質の開発	1,560	〃

研究種目	研究代表者	分野名	課題名	交付予定額 (千円)	新規・継続等
基盤研究(C)	野崎 亜紀子	一般教育	リスク社会における自由と協働の秩序	1,560	新規
"	天ヶ瀬紀久子	薬物治療学	グルタミン酸によるヘリコバクター・ピロリ関連胃病変の発生と定着の抑制機序の解明	2,600	"
"	久家 貴寿	生化学	FAM83H遺伝子変異に起因するエナメル形成不全症の発症メカニズム解析	1,690	"
"	奈邊 健	薬理学	インターロイキン-33をターゲットとした難治性アトピー疾患の制御に関する研究	1,040	新規(転出)
"	河井 伸之	薬化学	分子内不斉転写反応による1位置換テトラヒドロイソキノリンアルカロイドの合成	2,080	"
挑戦的萌芽研究	橋本 貴美子	薬化学	横紋筋融解性を有するきのこの毒性と分類	1,170	継続(転出)
若手研究(B)	長谷井 友尋	公衆衛生学	メイラード反応物ABAG及びその関連物質の糖尿病状態での生成及びその生態影響	1,040	継続
"	濱 進	薬品物理化学	癌の診断・治療法開発を目指した放出孔サイズ制御型の腫瘍低pH応答性ナノ粒子の開発	2,080	"
"	小林 数也	薬品化学	基質配列に基づく構造活性相関研究を通した新規BACE1阻害剤の開発	1,560	"
"	松本 健次郎	薬物治療学	炎症性腸疾患患者とモデル動物におけるTRPM2受容体の病態への関与	1,560	"
"	藤井 正徳	薬理学	脳ニューロステロイドをターゲットとした新規アトピー性掻痒治療薬の創出	1,300	"
"	沼尾 成晴	健康科学	筋肉・脂肪組織由来の新規生理活性物質からみた心疾患患者に対する運動療法の効果	910	新規
"	齊藤 洋平	生化学	分子シャペロンHsp105の発現亢進による癌悪性化機構の解析	1,820	"
"	西田 健太郎	衛生化学	味噌におけるATPクリアランス機構に着目した抗がん剤による味覚障害発症機構の解明	1,560	"
"	林 直樹	微生物・感染制御学	緑膿菌の腸管上皮細胞感知メカニズムの解析	1,170	"
"	丹羽 里実	薬理学	癌細胞におけるホルモン反応及びアポトーシス耐性獲得とイオンチャネル活性・発現制御	1,950	"
"	星谷 尚亨	薬化学	第3級炭素-水素結合活性化を鍵とする光学活性多置換アリールシクロプロパン合成法	1,950	新規(転入)

私の薦める、私の一冊

一般教育分野 教授 鈴木 栄樹

久保田淳ほか編著『人生をひもとく日本の古典』
第1巻「からだ」岩波書店、2013年

本書の前書きに鈴木健一氏が次のように書いているが同感である。「若い頃は、「からだ」に問題がない場合が多いので、「心」ばかりが肥大化して気になる。しかし、「からだ」に無理がきかなくなったり、故障がちになってくると、そのことによって「心」にも乱れが生じる。そこで初めて「からだ」が私だということが真に実感できる」と。私も、このところ無理がきかなくなった「からだ」のなかで、「心」が揺らぎはじめてきている。そんなおり、この本に出会った。新しい本との出会いも、またひとつの心ときめく出来事である。

本書を含むこのシリーズ全6巻の刊行趣旨は、岩波書店のサイトによれば、「古典作品のなかに描かれた人びとのさまざまな人生模様、生きる上でのいとなみを深く味わうアンソロジー。誰しもの人生に通底するという観点から、「からだ」「はたらく」「つながる」「たたかう」「いのる」「死ぬ」という六つのテーマのもと、ひろくジャンルと時代を横断して、古典本文を精選。鑑賞のための評釈エッセイを付す」とされている。アンソロジーとは抜粋集のことである。いずれの巻も興味深いが、第1巻ということ、医療系大学である本学とも関わりが深いこともあって、この巻をとりあげてみた。

第1巻には、「Ⅰ 身体という器」「Ⅱ 体の保たせ

方」「Ⅲ 衰え行く身体」「Ⅳ 食事の風景」「Ⅴ 飲酒さまたま」の5項目が用意されている。Ⅲには、『源氏物語』から次の一節が紹介されている。「過ぐる^{よわひ} 齢にそへては、酔ひ泣きこそとどめがたきわざなりけれ。…さりとも、いましばしならむ。さかさまに行かぬ年月よ。老いは、えのがれぬわざなり」。「え〜ぬ」は、関西弁の「よう〜せん」。このとき、光源氏はまだ47歳というが、今でいえば私よりも老けていたかも^{さかつほ}。また、Ⅴに掲げられた「なかなか^しに 人とあらずは 酒壺^{さかづほ}になりてしかも 酒に染みなむ」は、『万葉集』のなかの同伴旅人の歌である。いくら酒が好きでも（あるいはいくら人間がいやになっても）酒壺になりたいとは思わないが、その気持ちは理解できる。1300年も前の人が急に身近に感じられる。「夙^まに興きて鏡に照らし、先づ形体の変を窺^{うかが}へ」（『九条右丞相遺誡』）これは、子孫への遺訓であるが、早起きして鏡を見て自分の顔・身体の変化をチェックしなさいということであり、昔の人の健康への気遣いようが手に取るようにわかる。

若い人たちに薦めるには、少々年寄りむきの紹介になってしまったかもしれない。しかし、時代は変われども、人間はそれぞれの世代、男と女とでこういう感じ方をするのかということがわかってもらえるように思う。世代と性を超えて相互理解の一助に、というのはだいぶ大げさだが、是非一度手にとってみたい。4ページで1話完結、どれから読んでもOKです。

受賞

日本薬学会第134年会優秀発表賞受賞

2014年3月27日～30日に熊本で開催された「日本薬学会第134年会」において、本学の学生11名が優秀発表賞を受賞しました。

所属分野：生薬学分野

受賞者：博士課程2年次生 松本 崇宏

演題：メディシナルフラワー研究：タイ産イランイランノキ (*Cananga odorata*) 花部のメラニン生成抑制活性成分

演者：松本 崇宏、中村 誠宏、藤本 勝好
中嶋 聡一 (エヌ・ティー・エイチ研)
吉川 雅之、太田 智絵、小川 慶子
松田 久司

所属分野：薬化学分野

受賞者：5年次生 佐々木 舞

演題：スルホン酸を用いる1位アルケニル置換光学活性テトラヒドロイソキノリンの触媒的合成
演者：佐々木 舞、石橋 洸一、河井 伸之
上西 潤一

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：5年次生 坂井 美香

演題：標的化癌治療のために簡便に抗体を表面結合可能なプロテインA修飾ナノ粒子の開発
演者：坂井 美香、濱 進、板倉 祥子
三橋 尚登 (プロテノバ)
真島 英司 (プロテノバ)、小暮 健太郎

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：5年次生 山田 朝子

演題：遺伝子送達率の向上を目的とした3枚膜被覆ナノ粒子の構築
演者：山田 朝子、光枝 亜佐子、濱 進
中村 孝司 (北大院薬)
原島 秀吉 (北大院薬)、小暮 健太郎

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：博士後期課程2年次生 板倉 祥子

演題：癌細胞膜内プロテアーゼに応答して細胞内への薬物放出が可能な新規DDSの開発
演者：板倉 祥子、濱 進、扇田 隆司
小暮 健太郎

所属分野：薬品物理化学分野

受賞者：5年次生 高木 敬太

演題：チャネルタンパク質VDACを利用した新規環境応答性薬物放出リポソームの開発
演者：高木 敬太、扇田 隆司、濱 進
山本 武範 (徳島大疾患プロテオゲノム研セ)
篠原 康雄 (徳島大疾患プロテオゲノム研セ
徳島大薬)、小暮 健太郎

所属分野：病態生理学分野

受賞者：5年次生 杜氏 裕美子^{とうじ}

演題：アルツハイマー病の細胞治療法開発に向けた骨髄由来細胞のA β 貪食機能と内在性ミクログリアへの作用解析
演者：杜氏 裕美子、高田 和幸、河西 翔平
高田 哲也、北村 佳久、芦原 英司

所属分野：薬理学分野

受賞者：4年次生 黒川 なつ美

演題：選択的スプライシングによる酸感受性カリウムチャネルTASK2活性制御
演者：黒川 なつ美、遠藤 京子、石井 瑞紀
中倉 佐和、藤井 正徳、奈邊 健、大矢 進

所属分野：細胞生物学分野

受賞者：博士後期課程1年次生 重見 善平

演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスは小胞体ストレス応答(UPR)を抑制する
演者：重見 善平、馬場 悠輔、賀川 裕貴
渡部 匡史、藤室 雅弘

所属分野：細胞生物学分野

受賞者：4年次生 富岡 明絵

演題：再生不良性貧血患者TDM残血をもちいたヒトヘルペスウイルス再活性化についての症例検討
演者：富岡 明絵、渡部 匡史、下松谷 輝
柳本 洋美 (山梨大学病院薬)、八木 将太
賀川 祐貴、寺松 剛 (山梨大学病院薬)
寺島 朝子 (山梨大学病院薬)
小口 敏夫 (山梨大学病院薬)、藤室 雅弘

所属分野：細胞生物学分野

受賞者：4年次生 八木 将太

演題：敗血症患者における抗菌薬と β 、 γ 亜科ヘルペスウイルス再活性化との関連について
演者：八木 将太、渡部 匡史、下松谷 輝
柳本 洋美 (山梨大学病院薬)、富岡 明恵
賀川 裕貴、寺松 剛 (山梨大学病院薬)
寺島 朝子 (山梨大学病院薬)
小口 敏夫 (山梨大学病院薬)、藤室 雅弘

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

日本感染症学会 中日本地方会学術奨励賞受賞

微生物・感染制御学分野の林直樹助教が第56回日本感染症学会中日本地方会学術奨励賞（基礎分野）を受賞します。

本受賞は、『緑膿菌のⅢ型エフェクターExoSの上皮細胞内注入におけるⅣ型線毛の必要性』が評価されたものです。

2014年10月23日～25日に開催される第57回日本感染症学会中日本地方会総会にて表彰されます。

演題：緑膿菌のⅢ型エフェクターExoSの上皮細胞内注入におけるⅣ型線毛の必要性

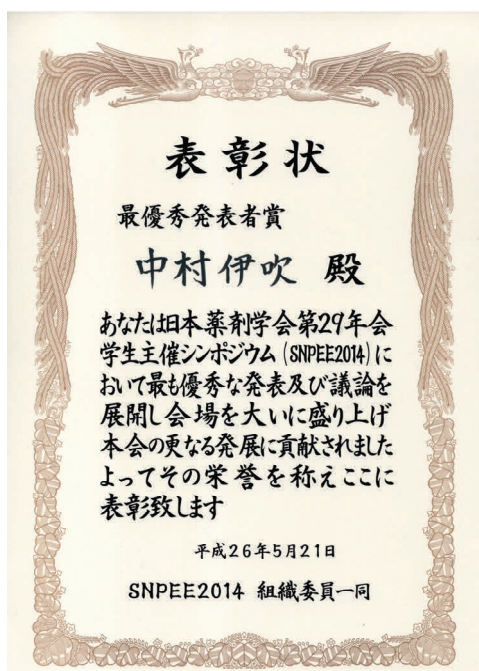
演者：林 直樹

日本薬剤学会第29年会 学生主催シンポジウム（SNPEE2014） 最優秀発表者賞

2014年5月20日（火）～22日（木）に開催された「日本薬剤学会第29年会学生主催シンポジウム（SNPEE2014）」において、薬品物理化学分野の博士後期課程2年次生中村伊吹さんが最優秀発表者賞を受賞しました。

演題：癌微小環境制御による癌治療戦略

演者：中村 伊吹、濱 進、板倉 祥子、小暮 健太郎



日本薬剤学会第29年会 最優秀発表者賞

2014年5月20日（火）～22日（木）に開催された「日本薬剤学会第29年会」において、薬品物理化学分野の6年次生豊田真央さんが日本薬剤学会永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

演題：がん治療を目的とした非侵襲的なペプチド抗原皮内送達法の開発

演者：豊田 真央、濱 進、池田 豊、長崎 幸夫
小暮 健太郎

クラブだより

ESS 部

私たち京都薬科大学ESS部は現在男子2名、女子15名でお昼のプラクティス（練習）を中心に活動しています。

去る2014年3月2日、京都薬科大学にて西日本医科歯科薬科学学生ESS連盟新春Speech大会（New Year Speech Exhibition）が行われました。関西の医歯薬大学のESS部から合計52名の参加があり、さまざまな個性あふれるスピーチを披露してくれました。どのスピーチもよく練られており、中でも特に決勝に進んだファイナリストのスピーチにはどれも「おっ!」と思わせるものがありました。また、スピーチ大会後は躬行館にて懇親会が行われ、スピーカーとオーディエンスの方々が交流を深めていました。今回は初の京都薬科大学での主催大会だったこともあり、運営上苦労した面もありましたが、非常に有意義な経験となりました。今後もスピーチ大会などを通して、楽しみながら英語力の向上に努めていきたいと思っています。



お 知 ら せ

人 事

任 命

学 長	教授 乾 賢一
副学長	教授 後藤 直正
教育研究総合センター所長事務取扱	学長 乾 賢一
薬学教育研究センター長	教授 細井 信造
情報処理教育研究センター長事務取扱	学長 乾 賢一
学生実習支援センター長	教授 北出 達也
バイオサイエンス研究センター長	教授 山本 昌
生涯教育センター長	特命教授 谷口 隆之
知的財産・産学官連携センター長	学長 乾 賢一
国際交流センター長	学長 乾 賢一

(以上 任期：2014. 4. 1～2016. 3. 31)

昇 任

事務局入試課	課長補佐 森 洋介
	(前 事務局進路支援課)
事務局進路支援課	主 事 太田 寛之
	(以上 2014. 4. 1付)

任 命

事務局入試課長代理	課長補佐 森 洋介
	(2014. 4. 1付)

配置換

事務局会計課契約係	課長補佐 星野 展宏
	(前 事務局庶務課付)
	(2014. 4. 1付)

採 用

事務局教務課	内匠 研介
(特命教員)	
薬学教育系教育研究総合センター	
臨床薬学教育研究センター	特命教授 大槻 雅子
	(以上 2014. 4. 1付)
医療薬科学系薬物動態学分野	助教 河津 真治
事務局国際交流推進室	佐々木雄太
	(以上 2014. 7. 1付)

兼 務

事務局研究・産学連携推進室長事務取扱及び	
事務局国際交流推進室長事務取扱	
事務局研究・産学連携推進室	事務局長 村澤 悟
	係 長 栗田 晃
	(事務局庶務課)
事務局国際交流推進室	主 事 山口 貴
	(事務局企画・広報課)
事務局国際交流推進室	北田 彩
	(事務局学生課)
	(以上 2014. 4. 1付)

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2014年3月～2014年5月に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等>

(卒業年次順)

安田 晃三(昭34)	野口 隆志(昭40)	野口 紘子(昭40)	京薬59会
			(昭和59年卒同窓会有志一同)

<法人役員・評議員・職員>

(五十音順)

乾 賢一(学長)	高山 明(教授)	武田 禮二(理事長)	村澤 悟(局長)
----------	----------	------------	----------

<元准教授>

奈邊 健

(2014年5月31日現在)